

エゾシカ

昼食休憩後、見本林整備の午後の作業に向かっていました。No.3 木道に下る手前で右側の藪に誰か歩いているのかと思う笹が擦れる音がしたので視線を向けると、ザザーッとエゾシカの成獣が沢の方向に向かって走り過ぎました。アツと思う間でした。数メートル後ろから来る石川さんに、シカがいたことを知らせましたが、気づいていないようでした。雌雄の区別は出来ませんでした。この時期雄は角がまだ伸びていけませんので、咄嗟にはわかりませんが、1頭だけで群れてはいませんでしたので、雄だと思われました。2012年7月2日、13時頃と記録します。



澄川の森では足跡は幾度か確認していましたが、実見したのは初めてでした。遂にここまで来てるか、という感慨です。エゾシカの増加が問題化している事実を実感せざるを得ません。自衛隊の実弾射撃音が頻繁に聞こえる森にまで進出しているのです。

支笏湖の森ではしばしば出会います。先般も佐野さんがバンビに出会った状況を話してくれました。じっと身を潜めて緊張にふるえていたから、怖がらせるのは本意ではないのでそつと身を引いたとのこと。足跡だらけ、糞だらけの場面にもよく出会いますし、林道の先を走られたり、横切られたりするとも珍しくありません。落角に出会うこともあります。先日も烏柵舞の森で髑髏を拾ってきました。我々が植えた広葉樹の幼樹の新芽を食べるにつつき存在です。しかし、考えてみれば人間は狩を始めた原人時代から、貴重な食料としてシカたちを狩りつけて命をつないできたわけで、永い依存の歴史があるのです。現在も未来も食料になってもらうのですから、憎んではいけないと反省します。



それにしてもあの藪の中をあのスピードで走るのは危険だと思うのですがね。林床にはわれわれが切り捨てた枝や幹が転がっています。足をひっかけたり、滑らせたりする筈ですが、足元など見える筈もないのに、と心配したことでした。